



在宅医療は「ボランティア」
手助け(医療・介護)が必要な人に手を差し伸べる。
しかし、実際は差し伸べた人にも、良い影響

- 家族に 家族の絆の強まり
- 地域に 地域の絆の強まり、地域の存続
- 社会に 医療や介護の若者への教育、学童や学生への命の授業

講師の方のお話では在宅医療とは特別なことではなく通院が困難になった場合に道路を病院の廊下、居室を病院の病室と考へればいいとのことでした。在宅医療の良い点は、本人がリラックスできるので免疫力が高まること、寝たきり予防や認知症予防にもつながり、そして何より、家族のきずなの深まりにあります。しかし、介護疲れによる悲しい事件もおきています。介護者の精神的、身体的負担

の軽減のための体制づくりも必要になります。そのためには介護サービスについての理解を深め、サービスを利用したり、悩みや不安を抱え込まず、相談できる機関や医療関係との連携がとても重要になってきます。

また、個人情報の問題がとかく言われますが、住み慣れた地域で生活するためにはやはり、手助けを必要とする人には手を差し伸べるといふ地域での「見守り」「ささえあい」が不可欠だと思えます。誰もがいずれば高齢者になります。

そして医療や介護を受ける立場になるでしょう。その時自分はどうのように過ごしたいのか、扱われ方を望むのかを考えてみました。地域全体で私たちの先輩であるお年寄りを敬い、その人らしさを大事にしてあげられるような社会をめざしていけたらと思います。

私はこの講座に参加して、大変いい勉強になりました。皆さんも次回の公民館講座にはぜひ参加してみてください。

岩村担当 社会教育指導員
田中 京子さん 寄稿

突然発生した口蹄疫

耕崎 勇さん(包末)寄稿

宮崎県で猛威をふるっている口蹄疫は、口蹄疫ウイルスの感染によって起こる急性熱性伝染病で牛・水牛・豚・めん羊・山羊などの家畜を始め、野生動物を含むほとんどの偶蹄類(肢の指が二本)が感染する。病名は発病動物の口・蹄の皮膚や粘膜に水泡が形成されることに由来する。

この病気を起こすのは口蹄疫ウイルスで、このウイルスの伝染力はすさまじく、さらに発病後に発育障害・運動障害・泌乳障害などを起こし家畜は産業動物としての価値を失うので、経済的被害は大変大きい。

国際獣疫事務局は口蹄疫予防のため国際条約を作り、殺処分方式を採用している。宮崎県都農町で四月二十日の初発例確認以降宮崎県二十六市町村のうち十市町村に拡大し、殺処分頭数は二十万頭にも達し、アウトブレイク(局地的大発生)の態様を示している。